

令和7年度大学・高専機能強化支援事業
（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【大学】
事業概要

令和7年2月申請時点

1. 基本情報

大学名	京都橘大学		
設置区分	私立	学校種	大学
都道府県	京都府	事業期間	令和7年度～令和16年度
申請区分	大学（一般枠）	改組内容	研究科等の設置・増員及び学部等の設置・増員
事業計画名	京都橘大学における情報学系研究科充実および、地域を巻き込んだ健康・行動情報収集・活用による情報教育研究の推進		

2. 事業概要

本計画は、2027（令和9）年度に新たにデザイン工学研究科博士後期課程（入学定員6名）を設置し、同時に現在設置する情報学研究科修士課程を名称変更し、デザイン工学研究科博士前期課程（同10名）とする計画である。また、本課程（は既設の工学部に加え、2026（令和8）年度新設予定のデジタルメディア学科（同100名、入学定員360人（3年次編入含む）の通信教育課程も併せ行う形で設置）およびロボティクス学科（同80名）も基礎とする研究科となるため、同学科が完成年度後の2030（令和12）年度にデザイン工学研究科博士前期課程の入学定員を10名から35名に増加する。両課程ともに、メディア授業によるほぼ通学なしで卒業可能なカリキュラム提供や、企業等課題をテーマにした研究の推奨に加え、キャンパスにおける企業連携拠点や、既存医療系学科や地域の医療機関、研究機関と連携し地域住民・学生等の健康・行動情報等の研究データ取得・活用環境の整備などを行い、企業等にとっても魅力的な研究環境を整備することにより社会人学生の確保や、研究科における企業等連携や研究成果の社会還元を推進する。

3. 情報系組織

情報系組織の設置・増員計画（赤字は事業対象組織）

課程	組織名	入学定員		設置・増員等時期	設置等後の 主な学位分野
		事業開始時	事業終了時		
博士	デザイン工学研究科デザイン工学専	0	6	R9設置	工学関係
	計	0	6	増員数	6
修士	デザイン工学研究科デザイン工学専	10	35	R12増員	工学関係
	計	10	35	増員数	25
学士	工学部情報工学科	130	100	R8減員	工学関係
	工学部ロボティクス学科	0	80	R8設置	工学関係
	デジタルメディア学部デジタルメディア	0	100	R8設置	工学関係
	デジタルメディア学部デジタルメディア	0	360	R8設置	
	計	130	640	増員数	510

大学全体の収容定員に占める情報系組織の収容定員の割合

	博士課程	修士課程	大学院計
増員前（R7.4.1時点）	0.0%	23.8%	17.5%
増員後	37.5%	52.2%	48.4%
増分	+37.5%	+28.4%	+30.9%



事業計画名	京都橘大学における情報学系研究科充実および、地域を巻き込んだ健康・行動情報収集・活用による情報教育研究の推進
-------	--

基本情報	
改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員
所在地	京都市山科区大宅山田町34
増員する情報系組織名(博士)	デザイン工学研究科デザイン工学専攻博士後期課程
入学定員増数及び増員時期(博士)	6名(R9)
増員する情報系組織名(修士)	デザイン工学研究科デザイン工学専攻修士前期課程
入学定員増数及び増員時期(修士)	25名(R12)
増員する情報系組織名(学士)	デジタルメディア学部デジタルメディア学科、工学部ロボティクス学科、デジタルメディア学部デジタルメディア学科通信教育課程
入学定員増数及び増員時期(学士)	デジタルメディア学科100名(R8)、ロボティクス学科80名(R8) デジタルメディア学科通信教育課程360名(R8)※編入学含む

<社会や地域のニーズ・課題>
企業や教育研究現場等でIT人材の量的・質的不足が見込まれ、先端型IT人材の育成や、社会人のリカレント教育の充実などが望まれている。さらに少子高齢化が進むなか、地域の高齢者施設や病院と連携したウェルビーイングの向上に向けた取り組みも期待されている。

<研究科等の体制強化の概要・コンセプト・特徴など>
【体制強化の概要】
2027(令和9)年度にデザイン工学研究科博士後期課程(入学定員6名)を設置し、同時に現在の情報学研究科修士課程をデザイン工学研究科博士前期課程(同10名)に名称変更する。本研究科は、2026(令和8)年度新設予定のデジタルメディア学科(同100名)およびロボティクス学科(同80名)も基礎とする研究科となるため、両学科の完成年度の2030(令和12)年度にデザイン工学研究科博士前期課程の入学定員を10名から35名に拡充する。
【デザイン工学研究科の特色】
① 社会需要に対応し、AI、ネットワーク、デジタルメディア、ロボティクス、サイバーセキュリティなどの教育・研究を展開。
② 社会人の受入れに向けて、通学不要の発展的メディア授業展開(千人を超える受講者を集めた本学情報工学科のリスキリング講座も拡充・活用)や、企業等との共同研究(社員派遣等)の推進、企業課題等を題材とした研究を推進。
③ 本学の健康科学研究科や看護学研究科、地域の高齢者施設などとも連携し、学生や地域住民の健康・行動情報等を体系的に収集し、各研究への活用・応用が可能な体制を整備(健康増進やスポーツ活動推進など地域のウェルビーイングへも貢献)

<教育内容・育成する人材像>
AI、ネットワーク、デジタルメディア、ロボティクス、サイバーセキュリティなどの教育・研究を展開し、高度職業人材・研究者の養成をめざす。

<初中段階・他大学・高専・企業・自治体等との連携>
【企業・自治体等・他大学等との連携】
地域住民のウェルビーイング向上や、AIを活用したスポーツ促進・能力向上を目的に、健康・行動データの蓄積活用を行い、企業や自治体とも連携して、情報を活用した医療健康関連イノベーション創出をめざす。
■ 近隣の音羽病院などの医療・介護施設や、国立スポーツ科学センター(JISS)、ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)、大阪大学ライフデザイン・イノベーション研究拠点(iLDi)、スポーツ庁Sport in Life推進プロジェクト(阪大)との共同研究体制を構築。
■ 情報収集・研究・社会還元を目的としたコーディネーターの配置や、企業等との共同研究エリアの設置を行う
【初等中等段階の学校との連携】
■ 本学情報工学科のリスキリング講座(100時間のメディアコンテンツ)をベースに、初等中等段階学生へ情報分野の教育教材の提供や高校情報科教員向け先端IT教育を実践。
■ 小学生を対象とした「たちばなサイエンスデー(実績あり)」の充実。
■ 京都橘高校と情報分野での高大連携を拡充し、情報系・理系学生の増加をめざす。

<女子学生、社会人学生、留学生等の確保>
■ 健康・行動等データ活用を起点とした企業等との連携や社員派遣の推進 など
■ メディア授業による通学不要カリキュラムの構築やリカレント教育の拡充 など
■ 海外大との連携による留学生確保(ランシット大学、大連東軟信息学院、培材大学など) など
■ 継続的な広報展開による女子学生の確保(医療系学科等からの進学も促進) など

